

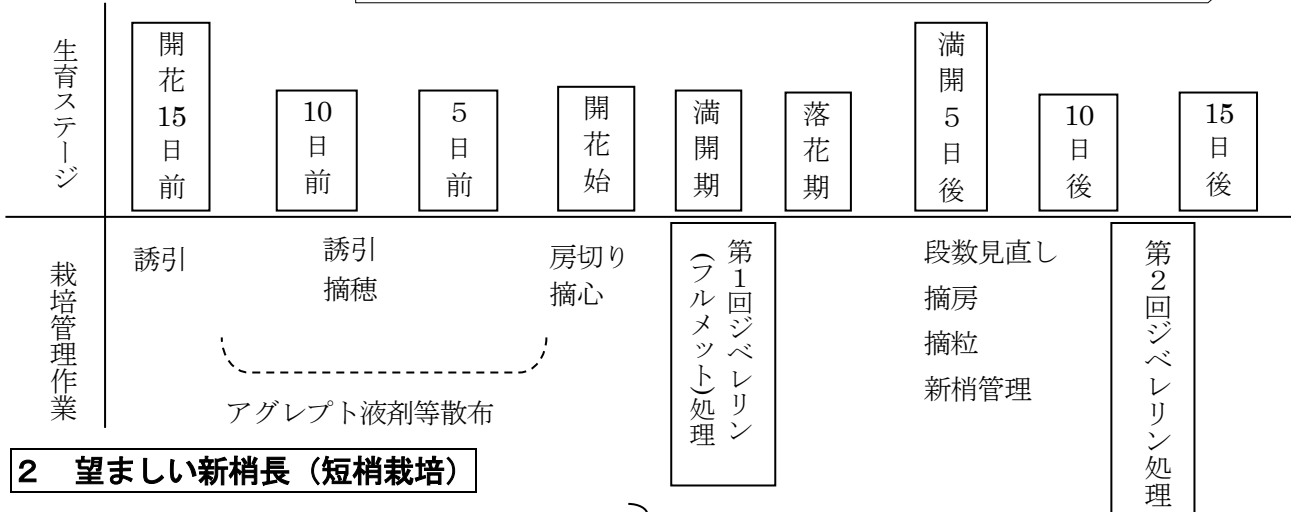
無核栽培ぶどう 開花期前後の栽培管理

平成 30 年 5 月 長野農業改良普及センター

1 栽培の流れ

開花期の目安（平年値）：無核巨峰（有核巨峰より 2 日ほど遅い）

- ・ナガノパープル（無核巨峰より 1 日ほど遅い）
- ・クイーンニーナ、ピオーネ（ナガノパープルより 1～2 日ほど遅い）
- ・シャインマスカット（クイーンニーナ、ピオーネより 3 日ほど遅い）



2 望ましい新梢長（短梢栽培）

展葉 7～8 枚時 50cm 前後
開花始期 80～100cm
満開期 110cm

- ・やや強めの新梢を維持する
- ・無核巨峰は開花始期に

3 開花前の摘心（着粒安定、果粒肥大効果）

着粒安定、果粒肥大のための必須作業である。

- (1) **時期**：開花 3 日前～満開期（房切り時）
- (2) 100cm 以上の新梢は、先端部分を軽く摘む（図 1）。
80 cm 程度しか伸びていない新梢も着房させる場合は摘心する。
- (3) ナガノパープルは園地内で開花を確認してから実施する。
（他の品種の摘心時期は多少前後してもよい。）
- (4) シャインマスカットは強めに摘心してもよい（図 2）。

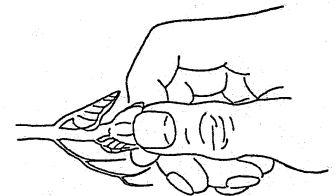


図 1 摘心の方法
（未展葉部分を摘み取る）



図 2 摘心位置（強めに摘心する場合）

※着粒安定のためフラスター液剤を展葉 7 枚～開花前に散布してもよい（使用回数は各品種 1 回）。
ただし、品種によって登録が違うので注意する（下表）。

品種	倍率	10 a 当たり散布量
巨峰	1,000 倍	300 リットル
	500～800 倍	100～150 リットル
ピオーネ	500～800 倍	100～150 リットル
シャインマスカット	1,000～2,000 倍	100～150 リットル

※フラスター液剤の登録使用回数は 2 回以内であるが、2 回使用した試験事例が少ないので基本的に 1 回とする。「ナガノパープル」の登録は 500～800 倍であるが、試験事例が少ない。「クイーンニーナ」には当面散布しない。

4 開花前の花穂の整理

- (1) 花穂先端の形状が確認でき次第、1新梢1花穂としてもよい。(ただし、作業に慣れていない場合は房切り時等に折れやすいので、2回目のジベレリン処理前までに1房とする。)
- (2) **形状がすらっとしている房で、下向き～横向きの花穂**を残す(第1、第2花穂どちらでもよい)。
- (3) 生育の遅れている新梢や弱い新梢は早めに1花穂とするか空枝にする。
- (4) 着粒が心配される極端に強い新梢は2花穂残しておき、2回目のジベ処理前に1房に整理する。

5 房切り(花穂整形)

- (1) 時期：花穂が伸びきり、房の上部が咲き始めた頃～満開期前(残した花穂が80%咲いた時)。
- (2) 花穂長の目安は

無核巨峰、ナガノパープル
シャインマスカット
ピオーネ、クイーンニーナ

開花始め

2.5cm

満開時

3cm

3.5cm

3cm

いずれも
花穂先端は摘まない

- 穂軸が太く先端がすらっとまっすぐな花穂を残す。
- 先端が二股のものは、他に良い房がなければ、二股の片方を落として整形しても良い。
- 扁平で帯状の花穂、先端がわん曲している花穂は落とすか、副穂(ショルダー)や上段支柄を使う。

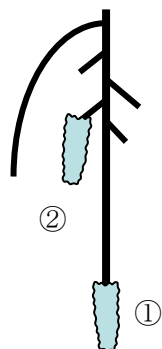


図3 穂軸は折れやすい！

房切りの順序は、次のように危険分散する。

まず、主穂先端部①を整形する。

→成功したら、先端を利用する

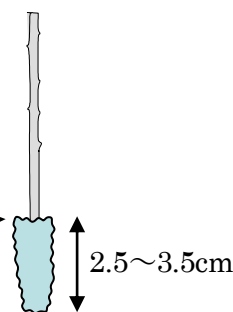
→①の整形時に穂軸を折ってしまった場合は

②の副穂や上段支柄を整形する。

①と②は開花期が異なるので注意

図4 房切り

支柄が水平と
なるように



6 ジベレリン処理(2回処理)

- (1) 1回目の花房浸漬処理

①時期 花蕾が100%咲いたときから1～2日が最適期

シャインマスカットは房尻が開花しない場合があるので、花蕾の8割が咲いたら実施しても良い。

※農薬登録は、満開時(80%の花蕾が開花)～満開3日後

②処理方法

ジベレリンとフルメット液剤を混合して浸漬処理を行う。

ナガノパープル、クイーンニーナはジベレリン単用。フルメット液剤を加用しない。

品種	処 理 濃 度		備考
	ジベレリン	フルメット液剤	
ピオーネ・無核巨峰	12.5～25 ppm	5 ppm	1つの房に対し、1回処理(花房浸漬)。(降雨等での再処理は後述)
ナガノパープル	25ppm	使用しない	
シャインマスカット	25ppm	2.5 ppm	
クイーンニーナ	25ppm	使用しない	

※シャインマスカットは着粒が安定してきたら、ジベレリン2.5ppm単用でも良い

【薬剤の作り方(例)】

		水1リットル	水2リットル
ジベレリン錠剤 (25mg)	12.5ppm	—	1錠
	25.0ppm	1錠	2錠

		水1リットル	水2リットル
フルメット液剤	10ppm	1本(10cc)	2本(20cc)
	5ppm	5cc	1本(10cc)
	2.5ppm	2.5cc	5cc

③留意点

ア 花冠が残っているとサビになりやすいので、処理前に
花冠を手などで落とす(特にナガノパープル)。

イ 生育が揃わない場合は、2～3回に分けて処理する。

ウ 処理が早いと小粒果(ショットベリー)の増加、穂軸の硬化・湾曲などが発生する。

エ 処理後は、棚や主枝を揺すり余計な薬液を落とす。

オ 処理の目印として、きゅうり等の接木用クリップや食紅を使うと便利。

1回目のジベ処理と房の反応

	開花始	満開	落花
無核比率	高	⇔	低
軸の硬化	著	⇔	少
軸の曲がり	多	⇔	少
小粒果の着粒	多	⇔	少
果粒肥大	小	⇔	大

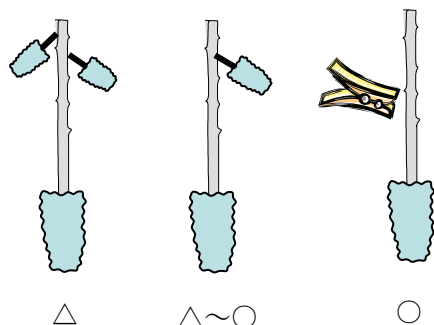


図6 ジベレリン処理の目印

上段に1～2段残し目印としてもよい。
しかし、房切りに手間がかかることと、
見落としが多いという欠点がある。

(2) 2回目の花房浸漬処理

①時期：満開 10～15 日後(大豆大：果粒横径 8～9 mm)に果房浸漬処理

②処理方法

薬剤名	使用濃度	使用目的	備考
ジベレリン	25ppm	果粒肥大促進	1つの房に対し、1回処理(果房浸漬) (降雨等の再処理は後述)

水2リットルにジベレリン錠剤2錠(50mg)

③留意点

ア 処理時期が早いと肥大が劣り、遅いとブルームが溶脱し、着色も遅れる。

イ 処理後は房を揺すり、余計な薬液を確実に落としてサビを防止！

ウ 湿度が高く薬液が乾きにくい日や、午後になってからの処理は避ける。

(3) 処理後3時間以内に激しい降雨がなければ、効果に問題は無い。

(4) 降雨等による再処理(再処理は農薬登録上も認められている。)

※いずれも再処理は1回！

再処理の回数 ①ジベレリン2回処理の1回目 → 再処理1回

②ジベレリン2回処理の2回目 → 再処理1回

7 かん水

開花前～第1回ジベレリン処理の間は、定期的に灌水し、土壤水分を一定に保つ。

第1回ジベレリン処理時に乾燥している場合は、午後にかん水を行う(湿度をあげる)。

8 その他、当面の管理

(1) 巻きひげの処理

新梢の巻きひげは随時除去すると冬場のせん定時に楽。

(2) べと病防除

前回散布と開花直前の散布間隔が長くなると花穂にべと病が発生しやすくなる。

無核品種は有核巨峰と比べて開花が遅い場合が多いので、展葉9枚頃に薬剤散布を行い、開花直前との防除間隔を10日程度とする。開花直前散布とその前の散布間隔は12日以内が目安。

この資料は平成30年5月1日現在の農薬登録状況をもとに作成しました。
農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認してください。